

沖縄平和学習映像教材 第1編 沖縄戦

探究ワーク データから考える

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:データから考える:あなたはどの読むか？

【課題①】人口比較から読む

データ: 1945年の沖縄人口は326,625人。男性135,150人、女性191,475人で、若年・壮年男性が著しく少ない人口構成となっていました。

問い: この人口構成から、沖縄戦が家族や仕事、地域社会にどのような影響を与えたと考えられますか。

【課題②】戦没者の内訳から読む

データ: 沖縄戦では、一般県民だけで約94,000人が犠牲になりました。これは日本側の軍人・軍属の戦没者数約94,000人に匹敵する規模です。

問い: なぜ戦闘員ではない住民が、これほど多く犠牲になったのでしょうか。これまで学んだ地上戦、南部撤退、壕での軍民混在などと結びつけて考えてみましょう。

【課題③】証言から読む

データ: 轟壕の証言「この時から私たちは敵は米軍でなく、友軍だと思うようになりました。県民はありったけの協力をした揚げ句、土壇場で裏切られたのです」

問い: なぜ住民は「守ってくれるはずの友軍」に恐怖を感じるようになったのでしょうか。この証言から、戦場における軍人と住民の関係について考えてみましょう。

第1編 沖縄戦

探究ワーク：データから考える：あなたはこう読むか？

学習指導案 中学生・高校生対象 25分 A4 2枚

数字や証言を根拠に沖縄戦が住民の暮らしに与えた影響を考え、住民の立場を想像する。3問すべてに取り組む、現地で確かめたい問いを一人ひとりが持つ。

1 本時の目標と準備

①資料から読み取れる事実と自分の推察を分ける。②家族・生業・避難生活の具体的な場面と結びつけて考える。③友達の見方を受け、自分の考えと現地での問いを更新する。

準備：ワークシート、提示資料、ヒント①・②、筆記用具。映像視聴と、地上戦・南部への避難・壕の生活の説明は事前に行う。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	資料の確認と個人メモ 3問を読み、数値・証言の気になる部分に線を引く。根拠と最初の考えを短くメモする。	目的を「資料から背景を考え、住民の立場を想像する」と伝える。ヒント①・②を提示し、考えにくい場合は視点を一つ選び、元の資料と照らすよう促す。 発問例「資料から分かる事実は何ですか。そこから、どんな暮らしの変化が考えられますか」	狙い：事実と推察を分け、考える手がかりを持つ。 評価：根拠となる数値や言葉を選んでいるか。
8 分	4人で3問を検討 ①→②→③の順に各問約2分、残り2分で異なる見方を確認する。全員が考えと根拠を伝える。	結論を一つにそろえず、複数の背景を考えさせる。ヒントを使った生徒には、選んだ視点と資料のつながりを説明させる。発言の少ない生徒にも順に話す機会をつくる。 発問例「ほかの理由も考えられますか。同じ場所にいた人でも、立場が違っていると気持ちは変わりますか」	狙い：他者の視点から、背景や住民の思いを多面的に考える。 評価：根拠を添えて話し、自分にはない見方を聞いているか。
7 分	各自で文章化 3問それぞれを、自分の言葉で2文程度にする。各問約2分、最後の1分で見直す。	グループの意見やヒントを参考に、本人が納得した考えを書かせる。「資料では～背景には～があるのではないか」という書き出しで支援する。 発問例「どの資料を根拠にしましたか。その状況で、人々はどんな不安や葛藤を抱いた可能性がありますか」	狙い：根拠・背景・人々の思いをつなぎ、自分の考えを言語化する。 評価：3問に取り組み、推察を断定せず表現しているか。
5 分	再共有と現地の問い 一人約1分で、深まった考えを共有する。残り1分で問いと確認方法を書く。	他者の考えで加えた点・変わった点に注目させる。「なぜ」「どのように」を使い、現地で確かめる問いを一つに絞る。 発問例「友達の話で新しく気づいたことは何ですか。その問いは、沖縄で何を見たり、誰の話を聞いたりすると確かめられそうですか」	狙い：対話を通じて考えを深め、現地学習の視点を持つ。 評価：新たな見方と、問い・確認方法を示しているか。

指導上の留意点3ポイント

- ① 事実と推察を区別する。人数や証言だけで原因・感情を断定させない。
- ② ヒントは視点として使う。元の資料に戻り、根拠を確かめて自分の言葉で書く。
- ③ 住民を一括りにしない。異なる経験・立場を想像し、特定の感情を正解にしない。

到達のイメージ

3問に根拠を添えて答え、住民の思いを背景と結びつけて考え、現地で確かめたい問いの一つを持つ。

沖縄戦の資料から考える授業の支援

3 3つの課題と発問のヒント

課題① 人口と暮らしへの影響を考える

資料：一般県民の戦没者約 94,000 人。問い：これほど多くの住民が亡くなったことは、家族、仕事、地域社会にどのような影響を与えたと考えられるか。

ヒント：「家族を養う」「子どもを育てる」「畑や店を続ける」「地域の助け合い」の一つを選び、担い手が失われる場面を考える。人数だけでは年齢・男女・世帯構成や具体的な生活の変化までは分からない。

課題② 戦没者の内訳から考える

資料：一般県民 94,000 人／沖縄県出身軍人・軍属 28,228 人／他都道府県出身兵 65,908 人。問い：なぜ一般県民の犠牲が日本側の軍人・軍属の合計 94,136 人に近い規模になったのか。

ヒント：地上戦、避難先と戦場の重なり、南部への移動、食料や水、壕の混雑、軍民の混在。既習内容と結びつけて原因の仮説を立てる。内訳だけから一つの原因を断定しない。

課題③ 証言に表れた恐怖を考える

資料：提示画像にある轟壕の証言では、協力していた住民が友軍を敵と感じ、壕の中で裏切られたと受け止めたことが語られている。問い：守ってくれると思っていた軍に恐怖を感じるようになったのはなぜか。

ヒント：「期待していたこと」「生き延びるために必要なもの」「軍と住民が同じ場所にいること」に着目する。失望、不安、怒りなどを挙げる際は、根拠となる言葉や既習の場面を添える。一人の証言を全住民・全軍人に一般化しない。

4 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	資料確認・個人メモ 5 分 グループで 3 問を検討 8 分 各自で文章化 7 分 再共有・問いづくり 5 分	他者の考えを手がかりにする。探究の導入期や、支援が必要な学級に適する。全員が発言し、各自で書く時間を確保する。
2 併用型	資料確認 5 分 一人で 3 問を考える 7 分 3 問を順にグループ共有 8 分 加筆・問いづくり 5 分	自分の考えを持ってから他者と比べる。共有後に、新たな視点や残る疑問を加える。
3 自立型	資料確認 5 分 一人で 3 問を文章化 7 分 文章の共通点・相違点を共有 8 分 書き直し・問いづくり 5 分	探究に慣れた学級向け。初稿を残し、どの考えが変わったかを追記して、思考の変化を見えるようにする。

いずれも 3 問すべてに取り組む。映像視聴・事前説明は別に確保する。1 枚目はプラン 1 の展開例。

5 評価と現地学習への接続

見取る点：①数値や言葉を根拠として示す。②住民の生活・立場と結びつけ、推察として表現する。③共有後の加筆と、確認できる問いがある。未達の場合は「使った資料に線を引く」「一つの生活場面に絞る」と具体的に返す。共感の強さや特定の感情への同意は評価しない。

現地では資料館の展示・地図・証言を使って問いを確かめる。語り手には回答を強要せず、話せる範囲を尊重する。事後は事前の推察と比べ、分かったこと、修正したこと、残る問いを書く。

6 資料の扱いと出典

人口の男女別数値と若年・壮年男性に関する記述は、調査対象・時点・年齢別資料の確認が必要なため本教材では用いない。証言は提示画像の要約として扱い、直接引用する場合は原典・証言者・収録時期を確認する。

戦没者数：沖縄県平和祈念資料館「沖縄戦 Q&A Q2」https://www.peace-museum.okinawa.jp/heiwagakusyu/okinawasen_ni_tsuite/qa/q2.html

数値は集計の範囲や定義を伴う。本教材は上記資料の区分を使用。

沖縄探究平和学習映像教材 第1編 沖縄戦

探究ワーク：データから考える：あなたはどの読みか？

年 組 番 名前

日付

探究時間 25 分。目標：資料を根拠に住民の暮らしや気持ちを考え、現地で確かめたい問いを持つ。3 問とも考える。まず自分で考え、困ったらヒント①・②の視点を一つ選ぼう。元の資料と照らし、根拠に線を引く。共有後、自分の言葉で 2～3 文にする。

① 人口と暮らしへの影響

資料：一般県民の戦没者 約 94,000 人

問い：多くの住民の死は、家族・仕事・地域にどのような影響を与えたと思うか。

ヒント：子育て、畑や店、生活を支える人、助け合いから一つ選ぶ。

② 戦没者の内訳

資料：一般県民 94,000 人／沖縄県出身軍人・軍属 28,228 人／他都道府県出身兵 65,908 人

問い：なぜ一般県民の犠牲が、日本側の軍人・軍属の合計に近い規模になったのか。

ヒント：地上戦、南部への避難、壕、食料や水、軍と住民の混在。

③ 証言に表れた恐怖

資料：提示画像の轟壕の証言の要約：協力していた住民が、友軍を敵と感じ、壕の中で裏切られたと受け止めた。

問い：なぜ守ってくれと思っていた軍に恐怖を感じたのか。根拠とともに考えよう。

ヒント：軍への期待、壕に残る・出る、命令に従う、家族を守る。

共有で加えた見方と現地で確かめたい問い

友達の話で加えたこと・考えが変わったこと

現地で確かめたい問いと、確認する場所・資料・相手

確認 ☐ 根拠を示した ☐ 事実と推察を分けた ☐ 3 問を自分の言葉で書いた

数値出典：沖縄県平和祈念資料館「沖縄戦 Q&A Q2」。人数だけで原因や気持ちは断定できない。